

(タウンミーティング資料)

# 八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を活かした 地域づくりの推進



2021年12月

長野県諏訪地域振興局

# ■ 現状と課題

## ■ 諏訪地域は日本を代表する山岳高原リゾート地だが・・・。

- ・ 観光客は減少傾向に加え、日帰り客が多い傾向に変化なし
- ・ 観光地へのアクセス道路網や二次交通の整備が課題
- ・ さらに新型コロナウイルス感染症の影響を受け、先行きは不透明
- ・ 2050ゼロカーボン、DXなど、時代の変化への対応が必要

## ■ 地域の魅力を活かしているか？

- ・ 自然環境を活かした森林整備、草原再生、景観保全
- ・ 冷涼な気候を活かした農産物の地消地産の推進
- ・ サイクルツーリズム、ユニバーサルツーリズム、日本遺産縄文など地域の特色を活かした観光振興



**「八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を活かした地域づくり」を住民、団体、企業、行政機関等が連携して取り組むことが大切ではないか？**

# ■これまでの経過

- ・ H29.4 諏訪地域振興局設置（これまでの地方事務所を改組）
- ・ 諏訪地域の現地機関が連携して取り組む「横断的な課題」として「八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を活かした地域づくりの推進」を設定
- ・ 諏訪地域の市町村等とともに、さまざまな取組を進めてきた。

## 【施策の柱】

八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を活かした総合的な振興方策の検討・展開

観光客減少への対応・特色ある観光素材の広域展開

生態系やCO2吸収源となる森林資源の保全・利活用

## 【具体的な事業概要（抜粋）】

住民アンケートの実施、道路ビュースポットの発信

広域観光マップ作成、農畜産物イベントのスタンプラリー

バリアフリー旅行相談窓口の設置に向けた支援

サイクルツーリズムによる誘客促進に向けた受け入れ環境の整備

日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」のブランド力強化

道路改良や歩道設置、修繕等、安全で快適な道路環境の整備

魅力ある森林景観づくりの推進、森林整備支援

外来植物・優占植物除去による高原植生の回復

ニホンジカの食害から植生を保護するための防護柵の設置

## ■ 住民アンケートの実施

### ■ 目的

「諏訪地域の山岳高原の魅力を活かした地域づくりの推進」に向けて、今後の施策や推進体制構築の参考とするために住民アンケートを実施し、地域住民の意識やニーズ等を把握することを目的とする。

### ■ 設計

- ▽ 調査時期 令和2年12月23日～令和3年2月8日
- ▽ 調査対象 岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村に在住の全世帯（78,987世帯）
- ▽ 調査方法 自計式、折込・返信形式  
（月刊ぷらざ1月号に折込）
- ▽ 有効回答 486人（0.6%）
- ▽ 調査主体 長野県諏訪地域振興局
- ▽ 集計・分析 一般社団法人長野県世論調査協会

## ■ 回答結果（抜粋）

**Q** あなたは、当エリアの魅力は何だと思えますか？

**A** **自然が豊か** (64.2%)  
**景観が良い** (57.2%)  
良い温泉がある (34.6%)  
空気、水がキレイ (34.4%)  
登山やアウトドアスポーツが楽しめる (27.8%)

⇒上位2項目（自然、景観）が半数を超えている。

**Q** あなたは、当エリアに愛着や誇りを感じますか？

**A** **強く感じる** (45.7%)  
**感じる** (46.1%)  
どちらでもない (4.7%)  
感じない (2.5%)  
全く感じない (0.8%)

⇒「感じる」と答えた人が全体の9割超

**Q** あなたは、当エリアの地域振興や魅力向上のために、何か地域活動をされていますか。又は活動団体に所属していますか？

**A** **している (25.5%)**

**していないが活動したい (44.2%)**

していないし活動したくない (11.5%)

わからない (18.5%)

**⇒活動に対し肯定的な回答が約7割**

- している活動で**最も多かったのは「環境保全、景観形成に関する活動」(ゴミ拾い等)で46件**、次に多かったのは「教育、文化の振興に関する活動」(音楽、美術館・博物館活動等)で30件
- 活動の継続、活発化に必要なことは、**「協同者」(73.4%)が最多**で、以下「他の活動者・団体とのつながり、情報交換」(47.6%)、「時間的な余裕」(43.5%)、「活動資金」(42.7%)で続く。
- 当エリアで熱心に活動している団体で知っているものを挙げる質問では、**「環境保全、景観形成に関する団体」(パークボランティア等)が22件**、特色ある観光地づくりに関する団体(観光協会等)が20件、**個別に見ていくと「サイクルツーリズム関係」が5件**、各地の社会福祉協議会が4件

**Q** 当エリアの地域振興や魅力向上のために、特に何が必要とお考えですか？

**A** 【観光関係】

交通手段（バス、タクシーなど）の利便性向上 (55.1%)  
諏訪湖と一体となった旅行商品づくり (46.5%)

【環境関係】

里山の森林整備の推進（除伐、間伐など） (65.0%)  
外来植物除去、シカ防護柵設置、火入れなどによる  
植生の保全・回復 (62.8%)

【農林業関係】

担い手の確保（就労：就農林体験の推進等） (57.8%)  
担い手の確保（雇用：労務管理セミナー等） (48.1%)

【その他】

地域資源の掘り起こし (68.1%)  
情報発信力の強化 (67.7%)

**Q** 山梨県などの他地域との連携により、相乗効果が期待できる取組は何だとお考えですか？

**A** **観光キャンペーンの共同開催 (70.6%)**  
**広域周遊旅行の商品づくり (56.6%)**  
観光道路への統一した愛称の命名 (44.2%)  
移住・定住イベントなどの開催 (39.3%)  
日本遺産に認定された『縄文文化』の発信 (34.6%)

**⇒広域観光に関する回答が多数**

### アイデア・提案 自由記入でのキーワードの出現頻度

<キーワード>	<件数>
PR・発信	39
自然・環境	20
諏訪湖	17
SNS	16
観光	15

<キーワード>	<件数>
温泉	13
子ども・若者	13
山岳高原	13
農業・農産物・特産	12
移住	10

**⇒PR・発信や自然・環境に関する意見が多数**

# ■ 道路ビュースポットの発信

(諏訪地域振興局企画振興課)

## 目的

八ヶ岳の岳麓地域周辺道路を、Insutaguram(インスタグラム)やGoogleマップを活用し、景観の優れた観光道路として広く発信することで観光誘客や観光周遊性の向上を図る。

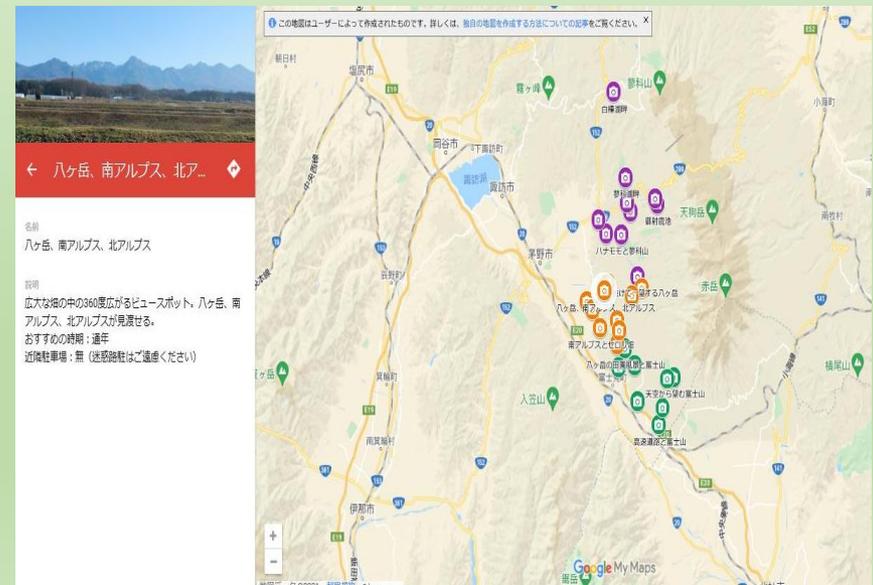
### ○Instagramの利用

専用アカウントから、ハッシュタグ等を活用しビュースポットの写真を広く発信



### ○Googleマップの利用

ビュースポットの詳細な位置・経路や写真等を閲覧可能



## ■ 広域観光マップの作成

### ○ 「信州諏訪エリア広域観光ガイド」の発行 《地域振興推進費活用事業》

広域的な周遊観光を促進し、日帰り・通過型から滞在型の旅行への転換に資するよう、諏訪湖・霧ヶ峰・八ヶ岳を中心とした諏訪地域とその周辺エリア（小海町・佐久穂町、山梨県北杜市）の観光情報をまとめたパンフレットを発行。

発行：令和3年3月

仕様：A4判 全16ページ フルカラー

配布先：諏訪・佐久エリア・山梨県北杜市の観光案内所、銀座NAGANOほか

※ 諏訪地域振興局・諏訪地方観光連盟の公式ウェブサイトからもダウンロード可



# ■農産物直売所等のスタンプラリー事業

## ○農産物関連イベント・直売所巡りスタンプラリー事業

日時：令和3年9月1日～11月23日

- 内容：
- ・農産物のイベントや直売所を巡り、販売されている商品を購入の上、3つのスタンプを押印し、応募。
  - ・抽選で、牛肉など長野県産の特産物や加工品3,000円～6,000円程度の賞品を30名様にプレゼント。



## ○直売所マップの改訂

R元年度に作成した直売所マップについて、情報の更新が必要となったため、今年度のスタンプラリー事業に合わせて1500部を増刷し、直売所の魅力発信を行う。



## ■ユニバーサルツーリズム※の普及啓発に向けた取組

※ 高齢や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行

### ○ユニバーサルツーリズムセミナーの開催 《地域振興推進費活用事業》

日 時：令和2年2月19日（水）

参加者：諏訪地域の宿泊事業者、観光関係者

内 容：① 講演「～だれもが訪れる諏訪へ～  
ユニバーサルツーリズムとは  
応対にあたって配慮すること」  
KNC-CT 瀧山 知弘 氏

② 研修 アイマスクや車椅子を使用し  
て日常に潜むバリアを体感し、  
必要な配慮を学ぶ



### ○ユニバーサルに関する宿泊施設調査の実施 《地域振興推進費活用事業》

観光客が自ら宿泊先を選べる環境を整えることを目的に、諏訪地域の宿泊施設を対象に、ユニバーサル視点での施設設備の導入状況を調査。

## ■ サイクルツーリズムによる誘客促進に向けた受け入れ環境の整備

### ○サイクリングルートマップの配布 《地域振興推進費活用事業》



#### 「自転車冒険地図 ～諏訪湖八ヶ岳編～」

令和元年度に諏訪地域におけるレベル別の推奨サイクリングルートをもとに6ルート設定済み。

このサイクリングルートに掲載したサイクリングマップを諏訪地域の観光案内所や松本空港等16か所で配布。

### ○サイクルツーリズム情報交換会の開催 《地域振興推進費活用事業》

日 時：令和2年10月29日（木）

参加者：諏訪地方観光連盟（市町村観光担当ほか）

- 内 容：① 県及び市町村の取組と課題の共有  
② 令和3年度以降の方向性の協議  
③ MTBトレイルランとE-bikeを活用したガイドツアーの体験



## ■ 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」のブランド力強化

### 業務概要 《地域振興推進費活用事業》

共通のキャッチフレーズをつくる！  
土偶等を装飾し、映えさせる！ など

縄文に関心を持ってもらえるような**土偶、土器等の見せ方等を検討**し、諏訪管内の博物館等の特徴を活かした提案を行う。

提案内容は、来年度事業として**イベントを実施**することにより、SNS等で縄文について拡散したくなるような仕組みをつくる。

### ターゲット

若者など、**発信力が期待される層**

### 参加博物館等

岡谷市	市立岡谷美術考古館
諏訪市	諏訪市博物館
茅野市	尖石縄文考古館
下諏訪町	星ヶ塔ミュージアム 矢の根や
富士見町	井戸尻考古館
原村	八ヶ岳高原美術館



## ■ 道路改良や歩道設置、修繕等、安全で快適な道路環境の整備

### ○ 県道富士見原茅野線の歩道設置

ジュネス八ヶ岳陸上競技場～立場運動公園の区間（4.8 km）で、安心して散策やジョギングができるように歩道を整備。  
早期の工事完了に向けて、今年度から工事に着手。



### ○ ビーナスラインの舗装修繕

八ヶ岳や白樺湖、霧ヶ峰を訪れる方が、快適なドライブを楽しめるよう、令和元年度から、舗装の傷みが進んだ箇所（約 5 km）の舗装修繕を実施。



### ○ 信州ビーナスライン輝く道づくり（主催：同実行委員会、事務局：茅野DMO）

日時：令和3年7月15日（木）

参加者：長野県、長野国道事務所、茅野市、立科町、茅野市内  
観光事業者、茅野市建設事業組合等（総勢460名）

内容：ビーナスライン沿線約50 km区間において道路の草刈り、ごみ拾いなど環境整備作業を実施  
（当該環境整備は、今年度で5年目）



## ■ 魅力ある森林景観づくりの推進、森林整備支援

### ○ 森林景観整備セミナーの開催 《地域振興推進費活用事業》

日 時：令和3年11月17日（水）～18日（木）

参加者：森林、公園、観光、道路等に関わる県・市町村職員、  
事業者、地域団体、住民

内 容：森林景観整備の考え方と手法について理解を深め、  
実効性のある森林景観整備事業を進めるためのセ  
ミナー及び現地視察を実施

■ 講 師：由田幸雄氏（技術士（森林部門）、林野  
庁職員）



### ○ 信州ビーナスライン沿線地区における森林整備支援 （危険木伐採37本）

道路に隣接する森林で車両等通行の安全確保のため  
の伐採を実施。



# ■ 外来植物・優占植物除去による高原植生の回復

## 目的

霧ヶ峰自然環境保全協議会が策定した「霧ヶ峰自然保全再生実施計画」に基づき、オオハンゴウソウ等の外来植物駆除とニッコウザサなどの優占植物除去により、生物多様性の保全・再生を図る

## 外来植物駆除作業

### ○ 対象種

- ・ハルザキヤマガラシ
- ・ヘラバヒメジョオン
- ・フランスギク
- ・オオハンゴンソウ など



### ○ R2年度作業（5回）実績

- ・場所：池のくるみ、車山、強清水湿地（ほか）
- ・参加者：154名 ・駆除量：2,920kg

## 優占植物除去作業

### ○ 対象種

- ・ススキ
- ・ニッコウザサ など

### ○ R2年度作業（3回）実績

- ・場所：車山、霧ヶ峰インターチェンジ
- ・参加者：75名 ・作業面積：1.4ha
- ※ うち刈取ったススキ1,770kg(0.7ha)は堆肥化



## 成果

霧ヶ峰における外来植物の減少  
防護柵内でニッコウキスゲが多数開花

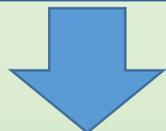
+ ニホンジカ防護柵設置



# ■ニホンジカの食害から植生を保護するための防護柵の設置

## 目的

ニッコウキスゲ等の貴重な高山植物をニホンジカの食害から守るため、官民協働で八島ヶ原湿原や車山など霧ヶ峰周辺において、電気柵、鋼鉄柵などの防護柵を設置



+ 外来種駆除・優占種除去

## 成果

防護柵内でニッコウキスゲが多数開花



## 令和3年度防護柵設置予定



設置場所	設置時期	概要	設置主体
① 霧ヶ峰インターチェンジ前園地	5月～10月	電気柵 約2.0km	下桑原牧野農業協同組合
② 車山地区	5月～10月	電気柵 約4.6km	車山高原観光協会
③ 車山肩地区	5月～10月	電気柵 約2.5km (うち0.4km二重柵)	霧ヶ峰自然環境保全協議会
④ 富士見台西側	5月～10月	電気柵 約0.8km	霧ヶ峰自然環境保全協議会
⑤ 八島ヶ原湿原	常設	鋼鉄柵 約4.0km	霧ヶ峰自然環境保全協議会
計		電気柵 約 9.9km 鋼鉄柵 約 4.0km	防鹿柵全体 約 13.9km

# ■ 令和4年度以降の取組の提案

アンケートの結果、住民の関心やニーズが高い下記の2項目について、地域振興局長からの事業提案として知事に新規・拡充要望を行うとともに、県と市町村・団体・住民の皆様と連携して取組を進めていくことを提案。

## 1 「自然」「景観」の活用

■ 諏訪地域の魅力の項目において「自然が豊か（64.2%）」「景観がよい（57.2%）」との回答が多かったことを受け、既に有している強みを活かし、より高いサービスを提供するための提案を行いたい。

### 【提案内容】

- 霧ヶ峰自然保護センターのエコツアーリズムの拠点としての機能強化事業（今年度改修（ゼロエネルギー化含む）が終了する当該施設について、指定管理制度の導入によるより質の高いサービスの提供）
- 観光客にもわかりやすい道路の整備事業（霧ヶ峰高原ヘラウンドアバウト（環状交差点）を設置し、景観を維持した上でわかりやすく安全・快適な交通の確保を図るとともに、景観を阻害する標識類の整理を行う。）

# ～霧ヶ峰自然保護センターの機能強化～ 「改修」と「指定管理制度導入」

## 「霧ヶ峰への誘い」



指定管理制度による  
観光と両立した情報発信  
新たな体験プログラム提供



### 「センター機能強化」のビジョンとコンセプト

#### 【ビジョン（目指す姿）】

- エコツーリズムの拠点として、体験やフィールドを提供
- 環境保全・再生と観光の両立により地域振興へ寄与

#### 【コンセプト（センターの役割と提供するサービス）】

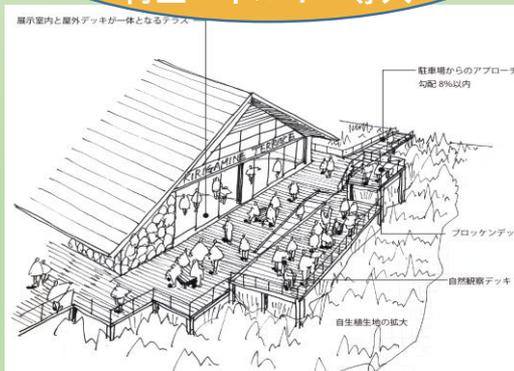
- **霧ヶ峰入口機能の強化**  
霧ヶ峰の総合窓口として様々な情報を発信・提供
- **自然文化体験機能の強化**  
霧ヶ峰を理解するための体験プログラム・展示の充実
- **活動交流拠点機能の強化**  
エコツーリズムの連携、快適な休憩スペースの提供



- **自然保護センター従来の機能**  
・自然公園利用指導、自然保護、環境教育の拠点



改修による  
展示充実・スペース提供  
再生エネルギー導入



# ■ 観光客にもわかりやすい道路の整備事業

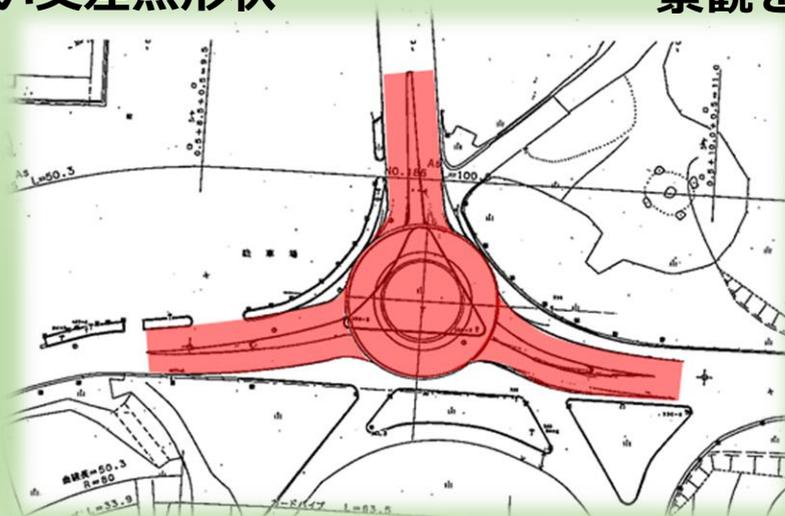
(諏訪建設事務所)

## 霧ヶ峰交差点



複雑でわかりにくい交差点形状

景観を阻害する案内標識



ラウンドアバウトを設置し、わかりやすく安全・快適な交通の確保を図るとともに、景観を阻害する標識類の整理を行います。(令和3年度設計着手)

## 2 日本遺産「縄文」の魅力発信

■ 住民からのアイデア・提案について自由に記入していただいたところ、「PR」「発信」というキーワードが最多（39件）であったことや、山梨県などの他地域との連携の項目において「観光キャンペーンの共同開催（70.6%）」「広域周遊旅行の商品づくり56.6%」が期待できるとする回答が多かったことを受け、諏訪地域が山梨県などの他地域と連携して取り組めるコンテンツとして有効な「縄文」「サイクリング」に関する事業提案を行いたい。

### 【提案内容】

- 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の更なる魅力向上に向けたブランド力強化事業（若者への訴求力が高いイベント等の開催）
- 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」縄文トレイルサイクリングコース開発事業（博物館等の各施設への周遊を促す仕組みづくり）

## ①日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」のブランド強化事業

### ❖ターゲット

20～30代の若者

### ❖テーマ

サステイナブルな「縄文」×  
自然と共存するライフスタイル

### ❖イベント実施例（変更の場合あり）

#### 【プラン1 SNSフォトラリー】

各博物館を巡り、写真をとってもらい、SNSへ投稿してもらう。

全スポット制覇で記念品プレゼント

#### 【プラン2 廃棄予定の地域資源を使ったものづくり体験】

（例）土器で花瓶をつくり廃棄予定の花を飾る など

## ②縄文トレイルサイクリングコース開発事業（仮称）

### ❖ターゲット

アウトドア志向の若者等

### ❖概要

諏訪地域で盛んなサイクルツーリズムを活用し、博物館等の各施設への周遊を促すサイクリングコースを開発する。

### ❖その他

令和3年度は、調査・検討WGを立ち上げ、縄文とサイクリングのタイアップについて協議を行い、コース開発へつなげていく。